

あけましておめでとうございます

## नयां वर्षको उपलक्ष्यमा मंगलमय शुभकामना

2016年も皆様のご健康とご多幸をお祈り致します

特定非営利活動法人 ミランクラブジャパン  
理事長 マナダール マダーブ ナラエン

ミランクラブジャパンの活動は今年 28 年を迎えました。皆様からの会費での女子教育支援活動は今後とも継続していきたいと思ひます。

昨年 4 月 25 日 7.8M という大地震に見舞われたネパールでは多くの犠牲者が出ました。そして 50 万人以上の人々が家を失い、避難生活を余儀なくされました。今でも不自由な生活が続いています。

震源地であるゴルカ郡、シンドウパル、チョク郡やドルカ郡を中心に多くの里子たち、関係者が被災しました。サンク村の里子 1 人とダルマスタリ学校の女子生徒 1 人が亡くなりました。8 月訪ネの際、里子の母親は、家の反対側に逃げていればと涙しました。被災地では、その後の度重なる余震にも怯え、家のある人たちでさえも長い間、避難生活を送りました。

震災から約 5 カ月後の 9 月待望の新憲法制定があり喜んだのも束の間、それと同時にインドの内政干渉による経済封鎖が始まりました。物価の高騰、品不足による復興のますますの遅れが続いています。最も困るのはガソリンや燃料の不足、医薬品の不足で、生活レベルの低下や被災地への支援にも問題が生じています。

ミランクラブジャパンは教育支援活動と並行して災害支援活動も行い、昨年 12 月末までに 6,251,260 円もの多くの義援金が集まり、現地のミランクラブネパール役員、スタッフ、関係者家族らで順次、支援活動を行いました。



支援された資材で仮設を作る

また昨年は JICA から被害の大きかった里子たちへの支援が数カ月単位で始まり、私たちの活動を勇気づけています。



義援金を受け取りに来た里子たち

皆様からの災害支援は想像以上のものでした。このような緊急事態においても活動を継続できるのも会員の方々、支援者の方々のご理解、ご協力があつてこそのものであります。心から感謝致します。

避難生活を送る里子たちはまだ大勢います。困難な中においても途切れることなく勉強が続けられるよう、ミランクラブジャパンは見守っていきたくと思ひます。

### 1. ミラン里子制度

ミラン里子制度は、1990 年から始まりました。現在里親会員は 100 名です。会員からの会費 15,000 円の内、12,000 円は利子の高いネパールの金融機関に預け、その利子からの教育支援を行つてきています。しかし諸事情により、ここ何年かは元本を取り崩さなければならなくなつています。(3,000 円は国内活動費)

ミランクラブの支援は、多くの支援団体の短期の支援と違い、自立可能な高校卒業までとなっています。又、高校を優秀な成績で卒業し、進学希望がある里子にも支援をしています。

1990年に1人の里子から始まったこの制度は現在891名になりました。現在支援を受けている子供たちは264名、その内訳は小～高等学校243名、大学生21名です。



里子とその仮住まい

### 年度別支援里子人数

1名 1990年	1名 1991年	11名 1992-93年	19名 1994年
29名 1995年	23名 1996年	29名 1997年	27名 1998年
37名 1999年	45名 2000年	26名 2001年	31名 2002年
32名 2003年	118名 2004年	26名 2005年	54名 2006年
34名 2007年	42名 2008年	31名 2009年	35名 2010年
33名 2011	46名 2012年	45名 2013年	69名 2014年
47名 2015年	<b>総合計 891名</b>		

里子たちの中には教員、会社員、エンジニア、医師、看護婦等の職業に就き自立し、社会貢献している卒業生も増えています。結婚した里子たちは教育の大切さを子供たちに伝えていくことでしょう。

ミランクラブは毎年支援金で賄える範囲で新しい里子を受け入れています。教育支援費は小学校1年生から高校10年生は500ルピー（約600円）、そして成績優秀で卒業した短大以上の学生にも700ルピー（約850円）支援しています。

短大生、大学生の場合、特別里親の方が支援して下さった場合、ミランクラブからの支援は打ち切られます。

現在9名の特別里親で13名の里子を支援しています。

## 2. ミラン職業訓練所

職業訓練所はミラシタルマスタリ学園センター敷地内にあり、年一回のミシシクラスを行っています。またミランクラブネパールの支部がある地方にもミシシを貸出して、職業訓練を行っています。

昨年4月の地震時ドルカ支部に貸し出していたミシシは全て建物倒壊により使えなくなりました。ダルマスタリにあったミシシも建物の損傷により壊れ、現在使えるミシシは9台となっています。

そのため秋からのダルマスタリ学園センターでの職業訓練は中止になりました。



地震で壊れたダルマスタリとドルカのミシシ

また職業訓練所の2階部分は危険なため解体し、1階部分だけ残されています。



震災前の職業訓練所と震災後の解体作業

昨年度は震災前の1月～3月まで3カ月コースのミシシクラスを1回実施しただけになりました。職業訓練は多くの村人たちの自立支援に役立っています。

職業訓練では訓練生に材料費の一部を負担してもらい、その他の費用は毎年、教育環境整備委員会費から教師の給料や設備費などを賄っています。昨年からの広島理事の職業訓練運営費支援により、毎年赤字だった会計は黒字となり、今後はより多くの村人たちが職業訓練を受けられそうです。このための会員も増やしていきたいと思っています。

ダルマスタリ学園センターにあるコン

コンピューター設備は一部の学生も使えるよう工夫されています。

### 3. ミランダルマスタリ学校

震災後、建設省からの調査団によってミランダルマスタリ学校は使用可能のグリーンステッカーが貼られました。

昨年9月に学校訪問した際、そのステッカーは見ましたが、実際の学校は壁に亀裂が入り柱との間にも長い亀裂が入っていました。1階は水浸しになっていて地震による地盤沈下が考えられます。



学校1階に溜まる地下水

現在まで義援金で建てられた仮校舎での授業を行っており、床は土間で外からの隙間風や冷たい空気が入り、寒さで風邪をひく子も出ています。



仮校舎と授業風景

学校を建て直せたら一番いいのですが、資金面からそうもいかず、少しずつの修繕を繰り返しています。これには義援金が役立っており、1階は水が引かないと使えないため、2、3、4階の教室を利用できるように、雨漏りを防ぐトタン屋根を屋上に取り付け、建物の亀裂なども直し、ペンキも塗り直しています。

子供たちの健康を考えると、なるべく早く本校舎に戻したいと思っています。

ミランダルマスタリ学校は、ネパール教育省の登録方針の下、保育園～10年生（高等学校）までの学校となっています。

現在、学校教職員は19名（男性6名、女性13名）、全校生徒は346名（男子166名、女子180名）です。

学校	学年	生徒数
保育園	1年	28
	2年	30
幼稚園	1年	31
	2年	30
	3年	28
	4年	34
	5年	27
小学校	1年	28
	2年	34
	3年	27
	4年	29
中学校	5年	29
	6年	23
	7年	27
高等学校	8年	23
	9年	16
合計		346

ミランクラブの主旨に基づいて、一人でも多くの子供が学校へ行けるようにと奨学金制度も設けています。現在、奨学金を受けている生徒は77名います。奨学金の種類は全額、半額、20%免除があります。

学費は経済的に恵まれない子供たちも学べるよう、他の私立学校から比べると3分の1の安さとなっています。公立学校から比べても2分の1となっています。

ミランダルマスタリ学校の授業料(Rs.)		
学校	学年費	期末試験費
保育園	690	260
	710	280
幼稚園	740	300
	770	320
	800	340
	830	360
	860	380
小学校	890	400
	920	425
	950	450
	980	475
中学校	1030	500
	1080	550

各学校の評価は、難関である高等学校卒業試験（SLC）にどれだけの生徒が合格するかで決まります。ミランダルマスタリ学校では合格率 100%で、昨年も一昨年並みの特等級や一等級といった優秀な成績を残すことができました。今年の受験生は 21 名います。頑張ってください。

学校にはまだまだ設備等は不足していますが、昨年 10 月から Wi-Fi も設置され、外部との連絡は大変便利になりました。近い将来ホームページも立ち上げる予定です。そして運営可能範囲で不定期ですが全生徒の健康チェックや年 2 回遠足なども行っています。学校の評判はとても良く、遠方からも通って来ています。ミラン寄宿舎の利用も増えるかと思えます。

#### 4. ミラン図書室

地震で被害に遭ったのは図書室も同じです。建設省の調査団からは、使用不可の赤ステッカーを貼られてしまいました。

図書室には保育園から大学まで幅広く利用できる約 8 千冊の図書が揃えられ、多くの生徒に利用されています。インターネットやコピー機も使えるため、学校の授業にも活用されています。

しかし地震による建物の損傷で蔵書やコピー機など全て別の場所に移動され、空っぽになった図書室は 6 ヶ月以上そのままになっていました。建て直すための予算もないため、応急処置のような修理を施し、屋上に雨除けのためのトタン屋根をつけ、再利用できるように頑張っているところです。

#### 5. ミラン寄宿舎

昨年のネパール大地震で寄宿舎にも影響がありました。所々にひびが入り雨漏りする箇所もあります。震災当時、学校は春休み中で子供たちは里帰りしていて無事でした。

学校は震災後、約 1 ヶ月半で再開しましたが、余震が続く中、保護者は寄宿舎に子供たちが滞在するのを心配し嫌がりました。ようやく行われた寄宿舎の修理後は 15 名の生徒が戻ってきています。

学校と同じ敷地内にあり、元校長先生一家、管理人、調理人も住んでいます。規則正しい生活が送れる上、勉強も見てもらえるので、親は安心です。

最後に、昨年の活動を報告致します。

3月28日、5月5日

越谷しらこぼと水上公園で埼玉支部によるフリーマーケット参加

5月17日

ネパール大地震緊急義援金募集を開始、現在に至る

7月12日

大宮のネパールレストラン「マリカ」でチャリティーコンサート開催

9月6日

杉戸町国際交流協会主催ネパール大地震復興支援チャリティーイベント

10月3日、4日

グローバルフェスタ JAPAN2015 に参加

10月10日

よこはま国際フェスタ参加

11月3日

埼玉国際フェア参加

11月29日

JICA 地球ひろばでネパール大地震緊急支援報告会開催

12月13日

粕壁南公民館で埼玉支部参加のネパール復興支援&国際交流のつどいに参加

12月14日

六本木でチャリティー写真展でのネパール大地震報告会へ参加

大きなところでは以上の通りですが、ネパール大地震義援金募集活動においては他団体や個人の方々の活動にも助けられました。震災後のネパールへは会員の方々や関係者の方々、大勢訪れてくださり、視察したり、直接支援金を渡したり、学校訪問で励ましてくれたりしました。

私達の活動はこれからも続きます。どうぞ皆様の温かいご支援とご協力をこれからもよろしくお願い致します。

皆様にとって良い年でありますように。